

## 令和2年度 第1回那須地域定住自立圏共生ビジョン懇談会 意見交換（要旨）

開催日時 令和2年10月2日（金） 午後1時30分から午後2時48分まで

開催場所 那須塩原市役所 本庁舎 3階 303 会議室

出席委員 10名

欠席委員 1名

那須塩原市 企画部長

事務局 那須塩原市 企画部企画政策課 4名

構成市町 大田原市 政策推進課 2名

那須町 企画財政課 欠席

那珂川町 企画政策課 1名

傍聴者 なし

### 1 開 会

### 2 あいさつ（山島会長）

本日は、第1次共生ビジョンの成果指標がどうなっているかと、第2次ビジョンの改定についてということで、今は社会情勢が厳しい状況ですが定住自立圏をどのように行っていくか御議論いただきたいので、よろしくお願ひしたい。

### 3 内 容

#### (1) 第1次那須地域定住自立圏共生ビジョンの成果指標の報告について

（事務局より説明）

#### 【質疑応答】

委員： 指標については会議の回数にするよりも、もっと具体的に分かりやすいものにしていただき、第2次ビジョンも評価していただきたい。

会長： KPI の指標は数字があるものでなければならない。例えば、みんなの満足度が上がった等指標にしなければいけない場合でも、それをどのように計るか難しい。様々な計画を作るとき KPI をどうするか、国の補助事業では地域の活性化という項目があって、人が何人通った等計れる項目になってしまう。達成させるように目標を置き、事務局が数値として達成しているのか分からないといけない。数字

で確認しなくてはいけないというのが今の風潮である。本当に地域活性化していることが大切である。

委員：もう少し具体的に分かる方法が良い。本当に地域が活性化していることが大切。

## (2) 第2次那須地域定住自立圏共生ビジョンの改定について

(事務局より説明)

### 【質疑応答】

委員：政策分野の圏域マネジメント能力強化における取組分野でコンピュータシステムの共同利用等について、「コンピュータシステム」という用語は現在使わないのではないか。国ではデジタル庁もできるという状況で、この内容は変更したほうが良いのでは。

会長：今すぐ方向性は見えないので、来年に向けて注視して進めていきたい。

委員：デジタルの進歩は早いがついていかななくてはいけない。

会長：4市町で連携して進めていくと良い。

委員：再生可能エネルギーの問題について、那須塩原市のBSの跡地はどうなったか。太陽光発電の施設を作るのか。また、有害鳥獣等について、農業被害が甚大なのに事業費がなく全市町で取り組むことは大変だと思うが、コンセンサスをとって全市町で取り組んでもらいたい。あと循環型社会調査研究事業について、太陽光発電以外にも環境に負荷をかけないという意味では、バイオマス発電は環境にやさしいと考える。このような問題も議論していきたい。新規の事業についても事業費を付けて実施していくことに意義があるので、しっかり取り組んでいただきたい。特に那須野が原開拓については、那須定住に位置付けることで、他人事で考えていた那珂川町も那須野が原の一部だと認識することができるので、とても有意義な事業である。

**事務局：** BS 跡地については、従来から太陽光発電所が建設されるということで、（地権者と事業者が）契約を結んで進んできたところである。昨年度の中で地元からの要望等もあり、違う用途で跡地利用できないかということで、事業者のほうに要望書等を提出してきたところである。その後、6月に県から河川の災害時の浸水想定区域が示された。あの地域のほとんどが50cm未満であるが浸水区域に該当することが判明した。公共的な事業の中で大規模に開発をして利用していくことが難しい状況になり、市として方針転換し公共施設の利用は考え直さざるを得ないということで、現状としては要望活動を中止し事業者が従来どおり事業を進めている。

**会長：** 太陽光発電所については説明のとおりで、有害鳥獣の取組はしっかりと4市町で取り組んでいただき、循環型社会ということでは那須塩原市はエネルギーを自立していくと市長が言っている。今、小水力の話があり、塩原のところでエネルギーの自立ということで議論が始まっている。小水力、太陽光及びバイオマス等、それらを上手く活用していくことができる。コロナ禍の中ではすぐに実施することは難しいかもしれないが、この那須地域はエネルギーが自立できるような循環型社会であることを全体で議論して考えていける。

**委員：** 大田原市でバイオマス発電をやろうとしたときに、規制がかかり送電線に載せられなく業者が入れなかった。現在は緩和されているのか。

**委員：** 2023年1月に向けて送配電網を整備しており、これが終われば基本的に入れるようになる。高い電圧の系統が詰まってしまい、送電線を直すなど大規模な工事を行っている。

**委員：** それが終わればバイオマス発電がつけられる。この地域は酪農家も多いので、糞尿を使ったバイオマス発電が有効であると思う。この地域の電力の地産地消について、この会議で議論ができる。

**会長：** 今年はコロナ禍の状況であるが、来年度からは循環型社会や再生可能エネルギーについて議論していくと地域の特性が出てくるかもしれない。

委員：この定住の4市町はゼロカーボンを宣言しているのです、この議題にマッチしている。

委員：KPIの目標値が甘く感じる。ほとんど達成できる目標になっていないか。有害鳥獣に関しては切実な問題だが意見交換会の回数が目標値ということに疑問を感じる。観光関係では日本遺産の活用は有効なものと考えているが、前年度、ガイドを養成するとしていたがコロナの関係で中途半端に終わってしまったので、今後しっかり取り組まなければいけない。また人材交流については、市役所の職員の交流も良いが民間の交流も必要である。役所の中では限界があると思う。例えば商工会の青年部等と交流を図るような、この定住自立圏でシステムを構築できると良い。

会長：確かに有害鳥獣対策について、会議を開催しました、達成できましたでは如何かと。どのようにしたら良いか。事業成果の項目が具体的な表現になっていれば良いだろう。

委員：鳥獣被害は会議だけでは解決できない。

会長：定住自立圏で取り組んでやっていけるかという、有害鳥獣に対して打合せをして情報交換することが精一杯だろう。実際に防止したり排除したりすることは別の議論になるので、ビジョンで表現しづらいことは御理解いただきたい。

委員：それぞれの自立圏の中で様々な事業があり、予算の付いた事業、付いていないが取り組んでいる事業などがあり、事業の方向性を懇談会で確認していくという認識で良いか。

会長：そのとおりである。その中で様々な情報交換をし、それぞれの市町で事業を展開していくという位置づけ。

委員：那珂川町で事業に関する予算を付ければビジョンに反映されるのか。

**事務局**： 各部会の中で事業を協議し事業費が必要な場合、検討することになる。

**委員**： 鳥獣被害は前から訴えていて、全市町で取り組んでいることは理解できる。那珂川町で公共の有害鳥獣処理施設がある。そこを視察等するとなると予算はつくのか。また、那須町で鹿の被害が異常にでている。その鹿が国道を超えるのではないかと心配している。その鹿が那須から日光、さらに八溝地域に入ってくるのが、林業・農業者の心配事である。それを机上で論じているだけでどれだけ切実に考えているか。那珂川町はジビエ猟で八溝ししまるでブームだが、コロナの影響を受けている。もっと広域で切実に情報を共有し議論してほしい。

**会長**： 役所間だけでなく民間とも交流したほうが良いとのことだが、どのように連携を図っていくか。市にも考えていただき、知恵をいただき効果のある方法を考えていただきたい。

**委員**： 広域連携を考えるのであれば、職員だけでなく地域の民間の企業等と意見交換を行い、コロナで集まるのが難しいなら、オンラインを活用し意見交換ができると思う。まずは動くことが大切だと思う。

**会長**： オンラインで会議をすれば様々な方とつながることができる。簡単に使うことができるので、ぜひ活用していきたい。

**委員**： 1次ビジョンを経て、この地域が満たされているもの、また、不足しているものが何かが見えてきたと思う。今後の計画の中で不足している部分を達成するためにビジョンに入れていっても良い。ある程度具体的な目標をビジョンに表現できないのであれば、何かの形で表しても良いと感じた。

**会長**： 4市町でまとまっているということは、上手くやればとても良い計画になると思う。先ほどの意見も含めて議論していただければと思う。

**委員**： 再生可能エネルギーについて、事業概要等も決定していると思うが不適切な事例の情報共有とあるが、不適切な事例のイメージがよく分からない。また、その対

応というのが、事業目標として疑問に思った。適正に利用している部分を伸ばしていくなど。

**会 長**：不適切に設置されている太陽光パネルをパトロールにより指導していくことに絞っている。来年度以降に向けては、循環型社会又は環境についても考えて議論していければ、もう少し議論が深まると思う。

**委 員**：今年はコロナの影響による外出自粛等で農家の方も商品が売れなく、観光業では旅館ホテル又は飲食業でお客さんが来なく、販路が非常に厳しかった。機転が利く方は在宅向けに直販で美味しいものを届けたりできた。早め早めに対応していれば、もう少し苦労は少なかったと思う。農家においては、外国人の就労者が来なくてハウスをつぶした話も聞いた。状況が分かっていたら何か対応ができたかもしれない。農家と観光業とのネットワークは必要であることを実感した。また、先月29日に県の観光セミナーがあった。学生の修学旅行で東京や京都等に当面向けないと、なおかつ、東北はある程度のところまで。何か体験できるものがほしいらしく、乳搾り体験等ではなく、PTAが納得するのは一番に歴史体験ということらしい。あとはある程度ガイドがいて歴史的なことを案内できないかという話があった。我々の地域で日本遺産の認定が取れて少しずつそういうことが進んでいるので、そこにガイドがいる等、システムを構築していかななくては、修学旅行等が自由に遠くにいけるには数年かかると聞いている。マイクロツーリズムや近場の観光資産等をしっかり見直す必要がある。広域的に連携して地域の良さを知ってもらいたい。また、那須エリアの不動産はこのところ売れていると聞いている。東京から人の流れが変わってきていると感じる。これから移住定住がコロナの影響で変わってくるのでは。地域の魅力を広域でまとまって発信していくのが良いと思う。

**会 長**：日本遺産が大きな柱になるかと思う。

**委 員**：本日はとても熱心な発言があった。鳥獣の話は改めて大変な問題と認識した。鳥獣の活動エリアが広がっている。観光の話等あったが、この地域の一番の魅力は自然だと思う。その中で様々な観光施設があったり、そして麓には田園があり、

それらが総合的に里山ということで、窓から見たとおり（良さ）分かる。このことは地域の4市町の発展の基本また、この会の中でも考えの基本に据えられていると考える。農業、観光、商業等これらを結ぶ交通業。交通事業者は実は自動車運転手が不足、皆さまの需要に応えられていないのが現状。今後は様々なところを自動運転で走らせるしかないと訴えている。様々な問題があるなか、お互いに支え合いながらビジョンに示されているような基本的な考え方で、さらに皆様の知恵を借りながら良い内容にしていければと思う。

#### 4 その他

○ 事務局

（事務連絡。）

#### 5 閉 会（午後2時48分）